

令和3年度 国産材の安定供給体制の構築に向けた中央需給情報連絡協議会 臨時情報交換会 議事概要

- 1 日 時：令和3年4月14日（水）10:00～11:50
- 2 場 所：林野庁A・B会議室（農林水産省北別館8階801・802）及びウェブ会議（Webex）併用
- 3 出席者：別紙のとおり
- 4 議事次第及び配付資料：林野庁ウェブサイトの以下URLに掲載
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/ryutsu/kyougikai.html>

5 概 要

ポイント

- ・今般の輸入材製品の価格急騰と供給不足に伴う国産材製品の代替需要の高まりについて、関係者から現状と見通しに関する情報が共有された。
- ・当面は現在の状況が続くとの見方が強い中、輸入材の供給リスクに鑑み国産材へのシフトを目指していくには、引き続き川上から川下までの関係者が現状把握と情報共有を行うとともに、中長期的な視点から業界一体となった対応が必要との意見が出された。

<主な意見>

（輸入材の状況、川下の動向等）

- ・輸入材製品の価格急騰と不足について、主要因の一つである米国の住宅需要増は今年いっぱい続く可能性があるが、現在の需給動向が一過性なのか今後も続くのか見通しづらい。
- ・日本の輸入材の購買力低下に伴い国産材の重要性が増しているが、強度の観点から特に構造材は国産材で代替しにくく、今後もタイトな状況が続くとみている。
- ・住宅建築分野では、今のところ工事が遅れたり注文を断るような状況には至っていないが、大手から中小事業者まで、今後は資材が入らなくなるのではないかと危機感を抱いている。
- ・中小工務店では、地域差はあるものの木材製品の調達が困難になりつつある。また、事業者によっては、施主との契約上、価格転嫁できるようにしている場合もあるが、全体としては活路が見えず厳しい状況。
- ・プレカット工場も、輸入構造材の使用が多い関東・関西圏では材の調達に苦労しており、減産を余儀なくされるなど、かなり厳しい。一方、自社の国産材製品で対応できている工場はフル稼働している。ただ、国産材製品の供給能力からみても木材不足は続くのではないかと。丸太輸出を一時的にでも規制できないかとの声もある。

(川中、川上の動向等)

- 国産材、輸入材を含めた木材製品製造量は3月には増加しているものの、なかなか受注に対応しきれていない。製品価格は今後も上がる見通し。
- 国産原木の需要も高まっているが、昨年の入荷制限の影響や、今般の需要増が一過性ではないかとの懸念もあり、出材量が回復しきっていない。一部の地域や樹種では原木の供給不足が生じている。例年、原木生産はお盆明けから本格化するため、短期的には年越し材で対応するしかないのではないかと。
- 輸入材を代替するには原木の採材方法も見直す必要があり、川下との連携がより重要。

(全般)

- 輸入材は欲しい分だけ入手すればよいが、国産材は原木一本をどう使い切るかが課題となる。この輸入材と国産材の供給側の性質の違いを川下の需要者には理解してもらいたい。
- 木材需給が大きく変動し先行きが不透明な中、引き続き川上から川下まで緊密な情報共有を進めていく必要があることから、本会議の結果を各地区の需給情報連絡協議会を含め関係者に速やかに共有するとともに、関係者には現状把握への協力をお願いしたい。
- 今般顕在化した輸入材の供給リスクに鑑み、国産材へのシフトを目指していくのであれば、川上から川下までの関係者が、互いの状況を理解した上で、中長期的な視点から安定需要と安定供給を合わせた形で、業界一体となって体制を整えていく必要がある。

(以上)